

2007年度 早稲田大学 文学部

日本史 解答例

I 原始・古代の信仰 <やや易>

問1ア・ウ 問2エ 問3オ 問4ウ 問5出雲大社 問6イ

問3のみ難問。資料集(図説)で「朱雀」の写真を見ていた人なら解けただろうか。キトラ古墳については最近話題となっており、早稲田受験生は当然学習しておくべきネタであった。文化史プリントや、直前期の講習でのプリントなどで紹介していた。

II 8世紀の東アジア外交 <標準>

問1オ 問2安史 問3ウ 問4ウ・オ 問5ア・ウ 問6長屋王

問7越前 ※解答用紙には「国」と書いてある 問8イ・ウ

問4・5は難問だが、問2の「安史の乱」や問8の「貂皮」などをつまづいているとしたら、的外れな学習だったということになる。

III 荘園公領制 <標準>

問1平忠盛 問2ウ 問3大江匡房 問4ア・ウ

問5一国平均役 問6イ・エ 問7承久の乱 問8エ

問3大江匡房の「匡」の中を「玉」にしてしまった人はいないだろうか。問4六勝寺のすべてが問われることはめったにないが、やり方を工夫すれば簡単に覚えておくことができた。とても独学では取り組む気にはなれない部分だろう。

IV 株仲間 <やや易>

問1 楽市 問2 エ 問3 ア 問4 醤油(「醬油」でも正解だと思います)

問5 イ 問6 国訴 問7 ウ 問8 イ

問7のような問題は、「ワンフレーズ史料判別問題」とでも言えるだろうか。このタイプの問題対策は意外と手こずる。普通に史料問題集を解いているだけでは、たった一行のフレーズだけで、それが何の史料であるかを見破ることは難しい。早稲田予備校ではオプション講座「でるとこ日本史プラス」で、空欄穴埋め問題や下線意味聞き問題の対策はもちろんのこと、史料文中の注意すべきフレーズにチェックをかけることもしている。早稲田入試においてはこうした対策が必要だということに気付いているだろうか。赤本の「傾向と対策」を見るだけでは気付かない特徴である。

V 近代の人権問題・占領下の日本 <やや易>

問1 旧慣温存 問2 オ 問3 北海道旧土人保護 問4 ウ

問5 全国水平社 問6 エ

問7 イ 問8 エ 問9 保安隊 問10 エ※

問11 日華平和条約(日台平和条約) 問12 朝鮮休戦協定

※これは作問ミスです。エとオ両方正解となりますが、
オトナの配慮で作問者の意向にそってエとしてあげましょう。

『受験生が本当にほしかった問題集』にありましたね。

設問文(1)は、早稲田定番の問題が目立った。問10のオについては、小笠原諸島は信託統治領にはなっていない。教科書での説明が十分でないために誤解されていることが多いが、講和条約では両諸島を「合衆国を唯一の施政権者とする信託統治制度の下におくこととする国際連合に対する合衆国のいかなる提案にも同意する」と定めているだけである。その後アメリカがこのような提案をしなかったので、国連から信託を受けて統治をする形にはならず、単にアメリカの施政権下におかれ続けたのである。早稲田大学では、1994年の教育学部でも誤って作問していたが、懲りないようである。

VI 肖像画・肖像彫刻 <易>

- 1 (1)ア (2)エ (3)ウ
- 2 (1)似絵 (2)頂相
- 3 (1)エ (2)海の幸

文学部は毎年、最後の大問は文化史と決まっているようだ。簡単だったが、2(2)は「頂相」を「頂像」などと書かなかっただろうか。

講評

言うまでもないが、昨年度以前の第一文学部の形式を受けついで問題であった。早稲田予備校では、この問題を全問通して1問ミスだった生徒がいる。決して簡単な問題ではなかったが、過去の出題データ分析に基づいた効率の良いやり方をすれば、こうした高得点獲得が可能なことに気付いてほしい。